

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 2-7-5(砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 植崎晃久



● 目 次

平成 27 年度 中部地方治水大会	2
平成 27 年度 四国地方治水大会	7
平成 27 年度 中国地方治水大会	13
平成 27 年度 近畿地方治水大会	17

平成 27 年度 中部地方治水大会

と き：平成 27 年 10 月 9 日 (金)
 と ころ：三重県総合文化センター

平成 27 年度中部地方治水大会次第

(敬称略)

第 1 部 記念講演 「伊勢参宮と宮川」	皇學館大学教授	岡田 登
第 2 部 治水大会		
開会宣言	三重県県土整備部長	水谷 優兆
主催者挨拶	三重県副知事	石垣 英一
	全国治水期成同盟会連合会長	陣内 孝雄
	一般社団法人三重県社会基盤整備協会副会長、	
	河川防災協会会長	河上 敢二 (熊野市長)
来賓祝辞	三重県選出参議院議員	芝 博一
	愛知県選出衆議院議員	神田 憲次
	国土交通省中部地方整備局長	茅野 牧夫
	三重県議会議長	中村 進一
来賓・祝電紹介 大会座長推挙 治水事業概要説明	国土交通省水管理・ 国土保全局治水課堤防構造分析官	山下 武宜
	国土交通省中部地方整備局河川部長	勢田 昌功
意見発表	三重県桑名市長	伊藤 徳宇
	三重県紀宝町長	西田 健
大会決議	一般社団法人三重県社会基盤整備協会理事、	
	河川防災協会副会長	尾上 壽一 (紀北町長)
次期開催県挨拶	愛知県建設部河川課長	石原 伸員
閉会宣言	三重県県土整備部長	水谷 優兆

第 1 部 記念講演

「伊勢参宮と宮川」



皇學館大学教授
岡田 登

第 2 部 治水大会

■ 主催者挨拶



三重県副知事
石垣 英一

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介頂きました三重県副知事 石垣でございます。ご挨拶を申し上げたいと思います。本来ですと鈴木三重県知事がお邪魔を致しまして、ご挨拶をさせて頂くところでございますが、公務の関係で上京しておりまして、ご挨拶を代読させて頂きます。どうか、よろしくお願い致します。

平成 27 年度中部地方治水大会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。本日、平成 27 年度中部

地方治水大会を開催致しましたところ、このように多数の方々のご臨席の元、盛大に開催できます事、厚く御礼を申し上げますと共に、三重県によくそお越し頂きまして、皆様を心から歓迎を致したいと思ひます。

先月の台風 17 号及び台風 18 号によりまして、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となりました。特に関東地方と東北地方では、記録的な大雨が降り、利根川水系鬼怒川などの堤防が決壊を致しました。国の集計では、8 名の貴重な生命が奪われ、家屋の流出や浸水などの負傷者は 49 名にも達しました。被害は 19,000 棟余りに達するなど、宮城県、福島県、茨城県、栃木県を中心に甚大な被害が発生を致しました。被災されました方々には、今なお不便な生活を強いられています。ここに改めて亡くなられた方々のご冥福お祈りすると共に、被害を受けられた方々にお見舞いを申し上げたいと思ひます。

さて、三重県におきましては、最近の大水害としまして、平成 23 年 9 月に三重県南部に襲来した台風 12 号によりまして、熊野市、御浜町などを中心に発生した紀伊半島大水害が思い起こされます。井戸川、志原川、相野谷川などでは堤防の決壊や越水によりまして、熊野市、御浜町、紀宝町等で大規模な家屋浸水が発生し、幹線道路等が通行不能となりました。本年 3 月 31 日に、大水害が発生以降通行止めとなっていました最後の県道が、3 年半ぶりに通行可能となり、復興に向け一つの区切りが付いたところであります。

このように、大きな被害が全国各地で頻発する中、住民の生活・財産を守り、安全安心な生活を確保するため、治水事業の重要性は増々高まっています。三重県では、県民の皆さんの命を守る事を最優先とした「三重県風水害対策行動計画」を策定し、河川堤防等の整備、あるいは堆積土砂等の撤去等ハード面の取り組みを進めると共に、河川の浸水想定区域図の作成や水位情報の提供等、人的被害の軽減に向けた避難体制の整備など、ソフト面での取り組みも一体的に進めている所であります。

さて、話は少し変わりますが、来年の 5 月 26、27 日にかけて「伊勢志摩サミット」が三重県で開催をされます。「開催支援おもてなし明日へ繋ぐ三重の橋」の 4 つの柱に基づきまして、安全安心に開催する事を第一に、三重県の魅力を世界に発信出来るよう、全県的な取り組みを展開しております。中部地方整備局様におかれましては、県を跨ぐ広域調整や国際メディアセンターを設置するに当たって、多大なご支援を頂き、大変感謝を致しております。どうか皆様におかれましても、伊勢志摩を訪れて頂き、伊勢エビなど三重の特産品をご賞味頂いて、風光明媚な英虞湾

の風景など、三重県ならではの美しい自然を楽しんで頂きたいと思ひます。

結びに当たりまして、本大会を契機に治水事業が一層推進されますと共に、本日ご出席を頂きました皆様方の、増々のご健勝ご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成 27 年 11 月 9 日三重県知事 鈴木英敬、代読であります。どうもありがとうございました。



全国治水期成同盟会
連合会長
陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。



一般社団法人三重県
社会基盤整備協会副会長・
河川防災協会会長
河上 敢二(熊野市長)

ご紹介頂きました熊野市長の 河上でございます。一言ご挨拶をさせていただきます。

まずは、治水事業に関わる多くの皆さんに参加を頂きまして、盛大にこの大会を開催できます事を、主催者の一人として大変嬉しく、光栄に存ずる次第でございます。

また、お忙しい中多くの来賓の皆様にもご出席を頂いている所でございます。心から厚く御礼を申し上げたいと存じます。

今回開催県となりました三重県におきましては、先程、石垣副知事も話されましたし、この後、意見発表でも触れられると思ひますけれども、過去には伊勢湾台風で大きな被害が発生をいたしましたし、最近では平成 23 年の台風 12 号による紀伊半島大水害でも、大きな被害が出たところでございます。熊野市の事で大変恐縮ですが、紀伊半島大水害におきまして、熊野市では、不幸中の大きな幸いとして人命が失われる事はございませんでした。

しかしながら、インフラの被害でありますとか、家屋の流出床上浸水など、官民合わせた被害額の総計は 100 億円近くになるのではないかと、思っていると、思っています。復興につきましては、ほぼ終わり

に近づいている所でございます。災害が発生して以来、国土交通省、三重県はじめ多くの県内外の市町村の皆さんにご支援を頂きました。

この場をお借りして、改めて心から御礼を申し上げる次第でございます。

台風などがもたらす、こうした大きな災害の経験を踏まえて、やはり治水事業に付いては、一層の推進を図って行く事が必要ではないかと、強く思う所でございます。

しかしながら、一方で事業を進めるに当たっては予算が必要ですが、少し長い目で見て、予算については、非常に厳しい状況、残念ながら減少傾向にある、という事でございます。このような中で、治水に関わる多くの皆さんにお集まりを頂いて、治水事業に関する必要性を再認識させて頂く事は、非常に意義のある事ではないかと思えますし、この大会を契機に治水事業を更に一層進めて頂く、そういう大会になる事を心から祈念をする次第でございます。

最後に、重ねて本日出席を頂いている皆様方に、心より深く感謝を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

来賓祝辞



三重県選出参議院議員
芝 博一

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介頂きました、地元三重県選出を頂いております参議院議員の芝博一でございます。

今日はこの三重県にお隣の愛知県から、そして静岡県から、岐阜県から、遠くは長野県から中部地方の5県の皆様方がご集合を頂きまして、心を合わせて地震対策に取り組んで行こうとする大会が、盛大に開催されました事、皆様と共にご盛会をお喜び申し上げます。

今、お話を頂きました。私達の記憶には、先の北関東や東北での水害の悲惨さ、まさにさまざまとテレビの画面を通じてマスコミを通じて新聞を通じて悟らせて頂きました。昨今の災害は、何時どこで何が起ころうとも不思議ではない。即ち、地球温暖化の変化のせいで、ゲリラ豪雨と言われるものが多々発生をし、台風が襲来しても予想だにしない大きな被害が出る、時には、自然災害を含めて私達人知を超えた中で、治水を対応して行かなければならない事も事実であり

ます。

しかし、だからと言って地域住民の命を守り、そして生命や財産を守って行く治水事業を、しっかりと前へ進めて行かなければならない事は、重々ご承知の通りでもあります。地域を流れる川を即ち治水を、川を制する者は地域を制して国を制する、と日本でも世界でも言われて来ました。正に私達人にとって、永遠の課題であるかもわかりませんが、諦める事なく英知と総力とを結集して、治水対策に取り組まねばならない、こんな思いを抱いております。合わせて治水と利水の部分は、表裏一体だろうと思っています。多くの被害をもたらす水の被害でありますけれども、私達の自然の恵み、農業の元へもそうでありますし、水源の元である事も事実であります。

利水と治水を上手くマッチングさせながら、地域の安心安全を皆様の英知と共にしっかりと進めて行く事が、その地域に住んで良かった、私達の後に続く子供達や孫たち、その世代においての私達の責任でもあろうかと考えております。

どうぞ、今日お集まりの皆さん方は、各県議会の先生の皆さん方、更には県職員の皆さん方、また、国や中部地方整備局の皆さん方や関係する皆さん方があります。心を一つに英知を合わせてこれからも、地域住民の安心安全のために、治水事業を1歩、2歩、3歩と大きく前進をさせて頂く、そんな心合わせの大会になります事をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉に変えさせていただきます。

本日は大会、誠にありがとうございます。



愛知県選出衆議院議員
神田 憲次

皆さま、こんにちは。ご紹介頂きました、今、リニアとそれから MRJ の選挙区でございます愛知県からまいりました衆議院議員の神田憲次でございます。

まずもって、平成 27 年の治水大会の盛会をお喜び申し上げます。言うまでもなく昨今の状況、それは予想をしない気象状況によって、今年もまた多くの生命や財産、鬼怒川、北関東流域こちらで失われておるわけです。国では今、国土強靱化の元、予算が少ない折ですが、何とかこの国家国土を守るために、一生懸命な不断的努力をしている事も事実でございます。その努力をしても、それを上回る気象状況によって日本の国土が多大な損害を受けている。これが、

今の現状かと思えます。そうして、こうして今日お集まりの皆様と共に、今一度国家の国土の、それから、先程芝先生申しましたように、川を制する者は国を制すと申されますように、この日本国、急峻な河川に囲まれたこの国家で、川を制す事がどれだけ大事な事を考える本日の機会です。有るかと思えます。

私の地元であります、愛知県の清須市、北名古屋市のこの2市においても、本年、2000年の水害から15年の節目を迎えますが、未だに庄内川を始め新川、五条川これらの河川の整備が引き続き継続して行われておるのが現状です。先程申しました国土強靱化の元と申しますが、即座にその効果を求める、こういった事がなかなか難しい状況の中、絶え間ない国と県と自治体の協力によって、お住まいの皆様方の生命財産を守って行く事、これが如何に重要なものかを本日皆様と共に考えてまいり、更には今後において、この河川をどの様にして治めてまいるのか、今後の検討課題だと思っております。そうした意味でも、今日こうやってお招き頂いてこの場を頂きました事に、感謝申し上げますと共に、これからも努力を続けてまいりたいと存じます。

本日の盛会をお喜び申し上げますと共に、また、一般の鬼怒川の流域河川の災害において、多くの被害を受けた方にお悔やみを申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日はお招きに預かり、大変ありがとうございました。



国土交通省
中部地方整備局長
茅野 牧夫

中部地方整備局長 茅野でございます。本日ここに、平成 27 年度中部地方治水大会が開催されるに当たり、ご挨拶申し上げます。ご臨席の皆様には、日頃から中部地方の治水事業、更には国土交通行政全般に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、先月、関東東北地方を襲った豪雨では、鬼怒川の堤防が決壊するなど、甚大な被害が発生致しました。国土交通省におきましては、この災害を受けまして流域の皆様と共に、避難を促す緊急行動という事を実施する事、としたところです。

しかし、当然ながら局地化、集中化、激甚化致します降雨に対して、一層のハード対策での対応も重要であります。特にこの中部地方は、ものづくり産業

が集積し、東西交通の要衝となっている一方で、我が国最大の海拔 0m 地帯が広がっており、高潮、洪水、南海トラフ巨大地震や、津波も危惧されております。

また、昨年噴火致しました御嶽山を始め、活火山も多く抱えております。これまで皆様方のご協力の元、河川、海岸、ダム、砂防事業により、流域の治水安全度は、着実に向上してまいりました。

しかしながら、依然として既往最大の洪水に対し、全ての区間で安全な整備が進んだとは言えません。

また、現況施設の能力を上回る様な大洪水等が発生した場合には、甚大な被害を被る恐れがあり、ハード対策ソフト対策を上手に組み合わせ、国と地方自治体が連携して取り組んでいる事が重要です。そして、これらの対策により治水安全度の向上が図られ事が、流域の経済活動の推進、地域活力の増進に繋がる、所謂ストック効果を生み出していくものと考えております。

住民の生命を守り、社会経済に対して壊滅的な被害を発生させない、更にはストック効果による地域活力の増進を目指し、今後とも防災減災対策をより一層推進してまいりますので、引き続き皆様方のご協力をお願い致します。

結びになりますが、皆様方の増々のご健勝ご活躍と、当地域の増々のご発展を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。おめでとうございます。



三重県議会議員
中村 進一

皆様、こんにちは。ただ今ご紹介を頂きました三重県議会議員の中村進一でございます。今日は私も三重県議会からもずいぶん多くの議員が、平素から治水の課題に取り組んでいるという事で、お邪魔をさせて頂いておりますが、私の方から一言ご挨拶を代表して申し上げたいと思っております。

まずは平成 27 年度中部地方治水大会、このようにこの三重県でこのように盛大に開催されます事、本当に心からお喜びを申し上げますと共に、歓迎を申し上げたいと思えます。

皆様方には平素から治水事業の推進を通じ、住民生活の安定と地域の発展に多大なるご尽力を賜っておりまして、深く敬意を表しますと共に、厚く御礼を申し上げる所でございます。

さて、先日の平成 27 年 9 月関東東北豪雨では、

多数の死傷者が出た他、家屋の流出また浸水、土木施設や農産物への被害など、市民生活に大きな影響がございました。私どもの住む中部地方でも、これまで大規模な台風被害豪雨災害を何度も経験をしてまいりました。本県におきましても伊勢湾台風や紀伊半島大水害などで、多くの尊い人命や貴重な財産が失われております。実は私も子供の頃は、堤防の壊れる所に住んでおりました、2度ほど水が押し寄せて来た、そういう経験もしておりますし、先程、岡田先生のお話がありましたけれど、私住んでいるのが伊勢でございます。此処も七夕台風によって大変な被害を受けた、その事も経験しておりますし、また、東日本の大震災の傷跡、そして東紀州を襲った台風 12 号、この時も丁度 4 年前副議長をしておりました、当時の山本全国議長会会長と一緒に現地に入らせて頂きまして、その後はボランティアで泥掻き等々でおじゃまさせて頂きました。

そういった、現地に入って初めてこういった災害が如何に人々の生活を破壊して行くのかと言う事を、本当に身を持って感じた所でございます。

また、最近雨の降り方が局地化されております。集中化、激甚化をしておりました、何時、どこで水害が発生してもおかしくない、そんな状況にあらうかと思えます。

こういった中で、本日、中部地方の治水事業に関わる方々がこうして一堂に会し議論を深められます事は、近々の課題である災害防止の観点から、誠に意義深い物があるかと思っています。

どうか皆様方におかれましては、地域住民の安全安心な暮らしを支える為、なお一層のお力添えを賜りますように、お願いを申し上げます。

最後になりましたけれども、本大会の開催に当たりまして、多大なるご尽力を賜りました関係者の方々に、厚く御礼を申し上げますと共に、御参集の皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

■ 治水事業概要説明

国土交通省水管理・国土保全局治水課
堤防構造分析官 山下 武宜

国土交通省中部地方整備局 河川部長 勢田 昌功
内容は省略させていただきます。

■ 意見発表

桑名市長 伊藤 徳宇

「伊勢湾台風を乗り越えて水と共に生きるまち・桑名」という題目で、伊勢湾台風による被害とその復旧及び現在の高潮対策・地震対策事業の状況について説明をされ、この地域が安全な地域になるために皆さんと一緒に治水事業の推進に取り組んでいくと発表されました。

紀宝町長 西田 健

「熊野川の治水事業とそれから紀宝町における防災対策について」という題目で、紀伊半島大水害での経験を踏まえ、町民の守り手を守る仕組みづくりと防災関係機関の詳細な情報共有が出来る仕組みづくりに取り組んだ事例について説明をされ、この地域が町民と一体となった災害に強い街づくり及び人の命を一番の基本とした街づくりに向けて取り組みを進めていくと発表されました。

■ 大会決議



一般社団法人三重県社会
基盤整備協会理事・河川防
災協会副会長
尾上 壽一(紀北町長)

大会決議文は省略します。

■ 次期開催県挨拶



愛知県建設部河川課長
石原 伸員

挨拶は省略させていただきます。

平成 27 年度 四国地方治水大会

と き：平成 27 年 10 月 20 日 (火)
 ところ：かがわ国際会議場

第 14 回 四国地方治水大会 次第

(敬称略)

開会宣言 香川県土木部長 小野裕幸

第 1 部 特別講演

「大規模水害への対応 ～行政と地域住民の連携の在り方～」

香川大学危機管理研究センター
 特任教授・センター長 白木 渡

第 2 部 治水大会

主催者挨拶 香川県知事 浜田恵造
 全国治水期成同盟会連合会会長 陣内孝雄
 来賓祝辞 衆議院議員 平井たくや
 香川県議会副議長 五所野尾恭一
 国土交通省四国地方整備局長 石橋良啓

来賓紹介 香川県河川協会会長 綾田福雄 (香川県議会議員)
 座長推挙 国土交通省水管理・国土保全局
 治水事業概要説明 治水課河川整備調整官 佐々木淑充

国土交通省四国地方整備局河川部長 西井洋史
 意見発表 高松市長 大西秀人
 大会決議 坂出市長 綾 宏
 次期開催県挨拶 高知県土木部長 福田敬大
 閉 会

開会宣言



香川県土木部長
 小野 裕幸

第 1 部 特別講演



香川大学
 危機管理研究センター
 特任教授・センター長
 白木 渡

「大規模水害への対応 ～行政と地域住民の連携の在り方～」について、御講演いただきました。

第 2 部 治水大会

■ 主催者挨拶



香川県知事
浜田 恵造

本日は、国会議員の先生方、県議会議員の先生方並びに四国各県で治水事業に携わっておられる皆様方を多数お迎えいたしまして、第 14 回四国地方治水大会を盛大に開催できましたこと、誠に喜ばしい限りでございます。県内外から御来県の方々を、県民を代表して心より歓迎申し上げます。

皆様方には日頃から治水事業の推進などにより、四国全体の発展に向けて多大なる御尽力、御支援をいただいております。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、御案内のとおり、近年、地球温暖化の影響と考えられる台風の巨大化、発生時期の早期化、ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な集中豪雨の頻発等により、全国で洪水や浸水による被害が多発しています。四国におきましても、平成 16 年には 6 個もの台風が上陸し、各地に甚大な被害をもたらしたことは、まだ記憶に残っているところでございます。

また、本年 7 月には台風 11 号が四国を縦断したほか、9 月は、台風 18 号の影響による大雨で、北関東から東北にかけての広い範囲で複数の河川が決壊するなど、大きな被害が発生したこともまだ記憶に新しいところでございます。

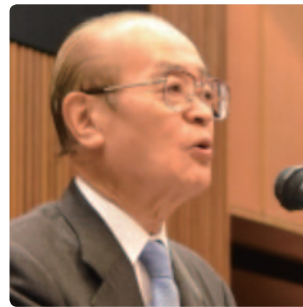
そして、南海トラフを震源とする地震が今後、高い確率で発生することが懸念される中、河川につきましては、津波が逆流することや、堤防の沈下による被害が想定されており、海岸堤防も同様に、その対策が急務となっております。

このような災害から住民の皆様方の生命、財産を守り、豊かで活力のある、安全・安心な生活を実現するためには、治水・利水施設の整備や地震・津波対策の強化が極めて重要でございます。

現在、本県におきましては、来年度以降の県政運営の指針である次期総合計画を策定中であり、その基本方針の 1 つに「信頼・安心の香川」を掲げ、南海トラフ地震・津波対策をはじめ、洪水などを防止するための河川改修、砂防施設、ダム施設等の整備を計画的に進めるなど、災害に強いまちづくりを推進することとしております。

このような中、四国各地域におきまして治水に携える皆様方が一堂に会し、住民の皆様が安心して暮らすことができる社会づくりのため、治水事業に関する意見発表、決議がなされることは大変意義深いことと存じます。

どうか皆様方におかれましては、この大会を契機として、四国各県の力を結集して、四国の治水事業が一層推進され、安全で安心な地域が実現されますよう、一層の御支援、御尽力をいただきますようお願い申し上げますとともに、御参会の皆様方の一層の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げ御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



全国治水期成同盟会
連合会会長
陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。

■ 来賓祝辞



衆議院議員
平井 たくや

地元国会議員を代表して一言御挨拶をさせていただきます。

先ほど浜田知事、陣内連合会会長からお話がありましたが、このように四国の治水に関わる方が集まって議論をするということは、非常に重要であると思います。

私が子どもの頃、香川県は渇水による給水制限が度々ありました。その一方で、山を 1 つ越えた徳島県では、四国三郎といわれる吉野川の氾濫等で大きな被害もありました。昭和 47 年に香川用水が完成してからは様々なことが改善され、本当に多くの方々の御尽力により今の四国があるということを常に考えております。

そういう状況の中、最近の異常気象というべき気候変動により、我々の想定をはるかに超える規模の災害が起きています。これからは、その対処に非常に頭を悩ませなければならないと思います。

先ほど、陣内会長から予算の説明がありました。予算について言えば、1990年代後半と比べると約3分の1のレベルになっています。予防的に様々な対策を講じるには十分ではありません。しかし、国の財政が苦しい中で、知恵を使い、どのように物事を計画的に進めていくのかが非常に重要であると私は考えております。

私は自民党が下野する直前の国土交通副大臣を拝命しておりましたので、その予算の流れ等を十分に承知した上で、あえてここで申し上げますが、治水は国民の生命と財産を守る上で非常に重要であり、これは国民との約束であるとともに我々にとって非常に大きな責任であると考えております。

四国の治水は各県単位で考えるものではなく、四国全体としてどのようにしていくのかが重要であり、これから予算を、どのように継続的、計画的に執行していくのかを皆様とともに悩み、責任をもって仕事をさせていただけるよう、今後とも全力を尽くすことを御約束させていただき、簡単ですが御挨拶とさせていただきます。

本日は皆さん、御苦勞さまでございます。ありがとうございました。



香川県議会副議長
五所野尾 恭一

本日ここに、香川県並びに全国治水期成同盟会連合会主催により第14回四国地方治水大会が開催されるにあたり、地元香川県議会を代表してお祝い申し上げます。

全国治水期成同盟会並びに国土交通省をはじめ、関係各位におかれましては、日頃より四国の治水関係事業の推進に格別の御支援と御協力を賜り、安全で快適な生活環境の確保に多大な御尽力を賜っておりますことに対し、心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

さて、先月発生いたしました関東・東北豪雨では、鬼怒川を始め多くの河川の堤防決壊や氾濫などが起こり、8名の尊い命が失われるなど、甚大な被害をもたらしました。この場をお借りして亡くなられた8名の方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

四国地方は、急峻な地形が多く、台風の経路にもなりやすい上、南海トラフ地震の発生が予測されてい

るなど、土砂災害や洪水、濁水などに見舞われやすい地域であります。このような状況の中、住民の尊い生命や貴重な財産を守り、安全で活力ある地域社会を構築するための治水事業は、四国全体が団結して取り組むべき、誠に重要な事業でございます。

折りしも、改正土砂災害防止法の1月施行、改正水防法の7月19日の一部施行、早明浦ダム再開発による新たな治水・利水対策の協議再開など、国や地方において数々の施策や対策が大きく進められております。

どうか皆様方におかれましては、本日の大会開催を契機として、「四国は1つ」の合言葉のもと、それぞれの地域の実情を踏まえながら緊密な連携を図り、治水の先進地域を目指して一層の御尽力をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、四国地方の治水事業の今後一層の推進と皆様方の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

本日は誠にありがとうございました。



国土交通省
四国地方整備局長
石橋 良啓

本日は、国会議員の先生方、全国治水期成同盟会連合会並びに香川県を始めとする関係各位の御臨席のもと、このように盛大に四国地方治水大会が開催されますこと、誠に喜ばしく、治水事業に携る者として非常に心強い限りであります。

さて、今年も四国地方では、7月の台風11号、9月の集中豪雨などにより、各地で深刻な浸水被害が発生いたしました。特に、那賀川水系においては、昨年に引き続き2年連続で洪水が発生し、甚大な浸水被害をもたらしました。

全国でも、9月の関東・東北豪雨による鬼怒川の堤防決壊などにより、関東・東北地方で甚大な浸水被害が発生しております。各地で観測史上最大の降雨を更新するなど、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化してきており、新たなステージに対応した防災・減災が必要になってきております。

一方、四国地方は、濁水に対しても脆弱であり、早明浦ダムは昭和50年の完成以降、40年が経過しておりますが、この間28回の取水制限が行われ、平成6年、17年、20年には利水容量が枯渇し、市民生活に甚大な影響を及ぼしております。

四国地方整備局では、洪水などの自然災害から生命や財産を守るために、堤防やダムなどの河川管理施設の整備、管理を推進しております。河川事業では、無堤地区を解消するための堤防整備や、昨年度浸水被害を受けた仁淀川と那賀川における放水路トンネルの整備など、再度災害防止対策を緊急的に実施しております。また、ダム事業では、山鳥坂ダムや横瀬川ダムの建設事業の推進を図るとともに、鹿野川ダムや長安口ダムの改造事業についても早期完成を目指して工事を進めております。

もう1つの大きな課題である南海トラフ巨大地震への備えについては、地震・津波対策として堤防などの耐震強化や嵩上げを旧吉野川や那賀川の河口部で集中的に行っています。

四国地方整備局としては、河川・ダム等の治水事業や治水、地震、津波対策を進め、さらに災害発生時における迅速かつ的確な初動体制の確立や広域的な支援、復旧など対応力の強化を図り、災害に強い国土造りを一層推進してまいりますので、今後とも皆様方の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、四国地方治水大会のさらなる御発展と本日御列席の皆様方の御健勝を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

■ 座長推挙



香川県河川協会会長
綾田 福雄

■ 治水事業概要説明



国土交通省
水管理・国土保全局
治水課
河川整備調整官
佐々木 淑充

「治水事業に関する最近の話題」について御説明いただきました。



土交通省
四国地方整備局
河川部長
西井 洋史

「四国地方における治水事業の概要」について御説明いただきました。

■ 意見発表



高松市長
大西 秀人

現在、高松市内において施行されている代表的な治水・利水事業である「本津川の広域河川改修事業」と「香東川総合開発事業・椋川ダム建設事業」について御説明いただき、地域の安全・安心の確保のため、一層の御支援、御協力を賜りたいとの御意見をいただきました。

■ 大会決議



坂出市長
綾 宏

四国地方は急峻な山地が多く、地質が脆弱であるとともに、台風常襲地帯に位置するため、古くより大雨による浸水被害に苦しめられてきている。過去10年間の四国地方一人当たりの水害被害額は、全国平均の約3.4倍となっており、他の地域と比較してかなり劣悪な水準にあることは言をまたないところである。

そのような状況の下、昨年の台風11号、12号による記録的な大雨により、四国の多いところでは、わずか10日間で2,000mmを超える降雨を記録し、各地で深刻な浸水被害が発生した。

今年も、四国を縦断した7月の台風11号や、8月の台風15号などが、次々に日本列島に上陸し、特に

徳島県的那賀川水系では2年連続で大規模な浸水被害が発生するなど、極めて深刻な状況が発生している。また、9月には、台風17号、18号の二つの台風の影響が重なった結果、関東から東北にかけて記録的な大雨をもたらし、鬼怒川をはじめ河川が決壊するなど大規模な水害を引き起こし、尊い人命と多くの資産が失われることとなった。

他方、四国地方では、長期間にわたり長時間の断水を余儀なくされた平成6年の大渇水に加え、平成17年や20年にも、早明浦ダムの利水容量が底をつくなど、渇水も頻発しており、各地で人々の日常生活や社会経済活動に計り知れない被害や影響が発生している。

地球温暖化の影響によるものと考えられる台風の大規模化や豪雨の激化あるいは渇水の頻発化などの気候変動は、人類の生存基盤そのものに影響を与える課題と言われており、これらに起因する災害を未然に防ぐためには、四国の極めて厳しい自然条件と全国に先駆けて進展している高齢化なども踏まえ、予防的な施設整備をはじめとする適切な対応策を全力を挙げて確実に進めていく必要がある。

加えて、南海トラフを震源とする地震の発生が切迫している四国地方においては、一度発生すれば、極めて甚大な被害が予想され、早急な地震・津波対策も不可欠なものとなっている。

一方、四国地方には、緑や心癒される良好な水辺空間が、今なお多数残されていることから、地域と一体となった四国ならではの豊かで潤いのある水辺環境の保全と創出が望まれているところである。

治水事業は、洪水等の災害から国民の生命と財産を守り、地域住民の生活や生産活動の安定化・活性化を支える最も根幹となる社会資本整備である。四国における地方創生の推進や人口減少の克服のためにも、より一層の治水施設の整備や既存施設の機能維持の重要性は不変であり、いかに財政が危機的状況に置かれていようとも、治水事業は「国家百年の計」として、国が責任を持って着実に実施しなければならないものである。

しかしながら、近年の治水事業予算は厳しい国の財政状況を背景に、災害軽減のための予防的投資が困難な状況となっており、維持管理にさえ支障をきたすのではないかと危惧しているところである。

このため、地域住民の生命のみならず、その営みの安全・安心の確保に責務を負う我々としては、不安な思いを抱かざるを得ない状況にある。

我々は、かかる事態を憂慮し、ここに四国地方治水大会を開催し、その総意に基づき、安全で安心な

国土を実現し、我々の子々孫々に引き継ぐべく、次の事項を国会ならびに政府に強く要望する。

記

- 一. 四国のみならず、関東・東北豪雨による水害など、全国で甚大な災害が頻発している現状に鑑み、災害を未然に防止し、国民の生命と財産を守り、安全・安心かつ豊かで活力のある国土を構築するため、必要な治水関係予算を確保し、堤防やダム等の根幹的な治水施設の整備を強力かつ計画的に推進すること。
- 一. 四国の極めて厳しい自然条件により、一人当たりの水害被害額が全国平均を大きく上回る現状に対処するため、四国における集中的な治水施設の整備推進と必要な予算の確保を図ること。
- 一. 地球温暖化に伴う気候変動による豪雨が激化傾向にあり、観測史上最大の降雨が各地で頻発するなど、洪水被害の拡大が懸念されることから、予防的な治水施設整備を推進するとともに、水防法改正を踏まえて洪水や高潮等のハザードマップ作成の支援、的確な避難誘導に資する情報提供の充実等、ハード・ソフト両面からなる防災・減災対策を強力に推進すること。
- 一. 頻発する渇水に備えるため、地域の実情に応じた水資源の確保を図ること。
- 一. 切迫する南海トラフを震源とする地震の発生に備え、河川堤防や水門、堰等の地震・津波対策を着実に推進すること。そのためにも、復興財源の「全国防災」に代わる新たな制度を創設し、予算確保を図ること。
- 一. 毎年激化する洪水に備え、流域一体となった治水対策を積極的に進めるとともに、樋門、水門、排水機場等の河川管理施設の長寿命化を図り、既存施設の有効活用や維持管理費を含めたライフサイクルコストの縮減を図る戦略的な維持管理・更新を推進すること。
- 一. 河川管理施設の適切な維持管理水準を確保するため、施設管理や補修・更新に必要な予算を確保すること。

- 一. 河川や水辺の持つ多様な機能や地域の特性を活かし、各地方公共団体や地域と連携し、歴史、風土等に根差した魅力ある良好な河川環境の形成を推進すること。
- 一. 国土保全上又は地方創生を実現するために特に重要な水系については、災害から国民の生命・財産や社会経済活動が確実に守られるよう、国と地方の適切な役割分担のもと国が責任を持って引き続き河川の管理を行うこと。
- 一. 防災体制の充実や防災教育、河川情報の共有化などの地域防災力の向上に資する施策の推進に対し、支援制度を確立するとともに、大規模災害時に「緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）」が行う広域的な防災活動に必要な装備及びシステムの充実・強化を図ること。

以上決議する。

平成 27 年 10 月 20 日
第 14 回四国地方治水大会

■ 次期開催県挨拶



高知県土木部長
福田 敬大

次回開催県の高知県より御挨拶いただきました。

平成 27 年度 中国地方治水大会

と き：平成 27 年 10 月 26 日 (月)
 ところ：山口県総合保健会館

次第

(敬称略)

開会宣言	全国治水期成同盟会連合会理事 山口県防府市長	松浦 正人
主催者挨拶	山口県知事	村岡 嗣政
来賓祝辞	全国治水期成同盟会連合会会長 国土交通大臣政務官 山口県議会議長	陣内 孝雄 江島 潔 畑原 基成
来賓紹介		
大会座長推挙	山口県土木協会副会長 山口県岩国市長	福田 良彦
治水事業概要説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課長 国土交通省中国地方整備局長	大西 亘 丸山 隆英
記念講演	山口大学副学長 「頻発する大規模自然災害に思うこと」	三浦 房紀
意見発表	山口市長 「安心・安全なまちづくりプロジェクト」	渡辺 純忠
大会決議	山口県土木協会副会長 山口県平生町長	山田 健一
次期開催県決定	鳥取県県土整備部河川課長	丸毛 裕治
閉会		

■ 開会宣言



全国治水期成同盟会
連合会理事
山口県防府市長
松浦 正人

さて、近年、全国各地で、甚大な浸水被害や土砂災害が毎年のように発生しており、本年も、台風 18 号の影響により、記録的な大雨となった関東・東北地方では、茨城県常総市の鬼怒川などで、堤防の決壊や越水が発生し、6千戸を超える家屋が浸水をするなど、各地で甚大な被害が発生しました。

中国地方におきましても、自然災害が頻発しており、本年は、幸いにして、これまでのところ大きな災害はなかったものの、昨年 8 月に、広島市を中心とした局地的な集中豪雨により、大規模な土砂災害が発生し、多くの尊い命が失われたことは記憶に新しいところであります。

本県もまた、例外ではなく、後ほど、山口市の渡辺市長から詳細な被害状況や水防活動等についての御紹介をいただきますけれども、平成 25 年 7 月には、本県と島根県を中心とした記録的な大雨により、県北部で河川が大規模に氾濫をいたしました。多くの家屋や耕地が浸水するとともに、JR の 4 つの橋梁が流失・損傷し、山口線や山陰本線が不通となるなどの大災害となりました。このため、県では、早期の再度災害防止に向けて、災害復旧事業などの河川改修を精力的に進めているところであります。

近年の気候変動を考慮すると、集中豪雨等による災害は、今後、ますます頻発・激甚化することが懸念をされており、こうした災害から住民の暮らしの安

■ 主催者挨拶



山口県知事
村岡 嗣政

平成 27 年度中国地方治水大会の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、多数の御来賓の御臨席を賜り、また、中国各県からも大変多くの皆様の御参加をいただき、本大会がこのように盛大に開催できますことを、心からお礼申し上げます。

心・安全を確保するため、治水対策を長期的な視点に立って計画的に、そしてかつ着実に進めていくことが極めて重要であると考えております。

本県におきましては、大規模な自然災害等の発生に備え、県政の運営指針であります「チャレンジプラン」に「災害に強い県づくり推進プロジェクト」を掲げまして、ハード・ソフト両面にわたる防災・減災対策を着実に進めていくこととしております。

こうした中、本日、中国地方各地から治水事業に深く関わる皆様方が一堂に会し、様々な課題について情報交換等を行われることは、誠に意義深いことであり、皆様方には、この大会を契機として、今後とも、「安全で安心して暮らせる地域づくり」に一層の御尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

終わりに、本日、御列席の皆様方の、今後ますますの御健勝と御活躍を祈念しまして、私の挨拶いたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



全国治水期成同盟会
連合会会長
陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。

来賓祝辞



国土交通大臣政務官
江島 潔

本日は、平成 27 年度の中国地方治水大会が、御関係の皆様方がお集まりのもと盛大に開催されますことを、まずお喜び申し上げます。また、御臨席の皆様方におかれましては、日頃から国土交通行政にたいへんに深い御理解と、また強力な御支援をいただいておりますことに感謝を申し上げ、とりわけ治水事業に関しましては、常に国民の生命と財産を守るために、本事業を通じて御尽力いただいておりますことに、心から感謝をする次第でございます。

さて、御案内のように近年の水害というものが非常に甚大化している、あるいは被害が本当に強力に

なっているというのは、もう誰の目にも明らかでありまして、例を挙げると枚挙に暇がないですが、新聞の見出し等を見ますと、かつてない規模の台風とか、あるいは、何十年代なかったような雨量とか、非常に、何故そんなに天変地異的なことがしょっちゅう起こるんだろう、というくらいの災害が続いているわけでありまして。

これが果たして、我々人類が化石燃料を使い過ぎたための地球温暖化が急速に進んだための結果なのか、あるいはまた別の要因なのか、まだまだ原因は判然としないところでありますが、治水関係に携わる私たちが直面しなければいけないのは何なのか、理由はどうであれ、異常事態といえる現在の地球環境に対して、しっかりと引き続き、国民の生命と財産を守っていかねばならない、その為に何を我々はしなければいけないかということに、全力を挙げなければいけないわけでありまして。

特にハード整備もさることながら、ソフト対策というのも非常に重要であるということが、先般の鬼怒川流域での災害に対しても、また指摘をされたところでありますし、国土交通省といたしましても早速、市町村の関係者を対象として、避難に対する様々な訓練を行っているところでございます。どうぞ引き続き、また皆様方の是非御理解をいただきまして、この中国地域において、大きな災害が今後来ましてもしっかりと、また未然に防げるような取り組みを出来ればと思っております。

特にハードの面での予算関係でありますけれども、非常にこの数年来、毎年削減されてきたものがようやく今年は下げ止まったといえますが、大幅に V 字回復とまではいかないですが、前年対比で少し増額の予算を獲得できそうでございます。しかしながら、先ほど来のお話でありましたように、その中身はといいますと、従来の施設の老朽化対策等々、あるいは直近で起きた災害に対する重点的な整備等も含めまして、なかなか、まだまだ私たちの希望するような十分な、あるいは迅速な整備も進まないというのが現状であります。

どうぞ御関係の皆様方におかれましては、引き続き治水対策というものが、非常に重要な国民の生命を守るための財源だということを、また強く関係各位、関係方面にわたり訴えていただきますことを、また改めてお願い申し上げます。

本日の大会が、中国地区における治水事業の大きな前進につながりますことをお願いいたしまして、挨拶いたします。今日は御盛會おめでとございます。



山口県議会議員長
畑原 基成

県議会議長を代表いたしまして一言御挨拶申し上げます。

今日は、県議会のほうから土木建築委員会のお集まりの方、委員長をはじめ、多くの皆さんが出席をされておられます。というのも、しっかりこの治水をやってもらいたい、という思いではないのかなというふうに思っております。

また、中国地区、各地区から、この山口によろそおいでませ。山口へお越しくださいませ。本当にありがとうございます。この大会に一堂に会して皆様がお集まりになる。そして、これまでのいろいろな災害に遭われたその原因はなんだろうか、という様な事をしっかりと意見交換をされると、これからの大きな課題を克服するために素晴らしいことではないかな。このように思っております。

それと、先程から江島先生もおっしゃいました。予算を確保しなければいけない。是非とも、江島先生には政務官の初仕事でございますので、しっかりとやってもらいたい。このように思っております。

これからも災害が本当に、未曾有の、思わぬところに、思わぬものがやって来るわけありますので、この辺もしっかり要望しなければいけない。このように思っております。

今日はそういった皆様の思いがしっかり届くように、素晴らしい実りのある会であることを御祈念申し上げます、誠に簡単でございますが、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

■ 大会座長推挙



山口県土木協会副会長
山口県岩国市長
福田 良彦

■ 治水事業概要説明



国土交通省
水管理・国土保全局
治水課長
大西 亘

「治水事業に関する最近の話題」

御説明内容は省略させていただきます。



国土交通省
中国地方整備局長
丸山 隆英

「中国地方の治水対策について」

御説明内容は省略させていただきます。

■ 記念講演



山口大学副学長
三浦 房紀

「頻発する大規模自然災害に思うこと」

御講演内容は省略させていただきます。

■ 意見発表



山口市長
渡辺 純忠

「安心・安全なまちづくりプロジェクト」

平成25年7月に発生した「山口・島根豪雨」に対する山口市の取り組みについて、意見発表いただきました。

■ 大会決議



山口県土木協会副会長
山口県平生町長
山田 健一

下記の大会決議案を読み上げて提案の後、大会決議が承認されました。

記

- 一 災害から生命・財産を守る治水対策は、国としての基本的責務であることに鑑み、洪水被害・土砂災害を未然に防止し、国民が等しく安全を享受するため、平成28年度治水事業予算の確保・拡大を図ること。
- 一 気候変動等に伴う水害の頻発・激甚化を踏まえ、予防的治水対策の根幹である堤防やダム等の整備を強力に推進すること。また、局地的なゲリラ豪雨に対し、河川・下水道が一体となった市街地の集中豪雨対策を推進すること。
- 一 頻発する水害、土砂災害に対する早期復旧・復興を図るため、災害復旧及び再度災害防止を徹底するとともに、大規模災害への危機管理対応として、地方整備局が中心となって広域的・機動的な危機管理対策を充実させるなど、国が積極的に主体的な役割を果たすこと。
- 一 沿岸部の河川においては、台風時の高潮により浸水被害が頻発しているため、高潮堤防、水門、排水機場等の高潮対策を強力に推進すること。
- 一 東日本大震災を踏まえ、津波による被害の発生を防止し、または軽減するための津波観測体制の整備充実、河川津波遡上区間や平坦地における堤防・水門等の耐震化等、総合的で効果的な津波対策を推進すること。
- 一 老朽化が進む河川管理施設について、適切な点検的確な修繕を実施し、長寿命化を図るとともに、戦略的な維持管理・更新を推し進めるための施策の充実や、将来に備えた安定的な予算を確保すること。
- 一 円滑な避難行動や水防活動のためには、正確かつ精度の高い降雨予測や洪水予測が不可欠であり、高精度レーダー網などの情報基盤整備や、減災のためのソフト対策を強力に推進すること。
- 一 河川や水辺の持つ多様で豊かな自然環境の保全と、地域の歴史、風土等に根ざした河川環境の形成を推進すること。また、地域住民による河川愛護活動を支援するとともに、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間を創造するための施策を充実すること。
- 一 既存施設やソフト施策の最大限の活用を図りつつ、ストック効果が最大限発揮されるよう事業の推進に努めること。

■ 次期開催県決定



鳥取県
県土整備部
河川課長
丸毛 裕治

挨拶は省略させていただきます。

平成 27 年度 近畿地方治水大会

と き：平成 27 年 11 月 9 日 (月)
 ところ：アオッサ 福井県県民ホール

平成 27 年度 近畿地方治水大会 次第

(敬称略)

第 1 部 基調講演

「気候変動における影響評価と適応について」

京都大学 防災研究所副所長 中北 英一

特別講演

「豊岡市はどのようにして台風災害と闘ったのか」

豊岡市長 中貝 宗治

第 2 部 治水大会

主催者挨拶

福井県知事 西川 一誠

全国治水期成同盟会連合会会長 陣内 孝雄

福井県治水海岸協会副会長 牧野 百男 (福井県鯖江市長)

来賓祝辞

参議院議員 滝波 宏文

国土交通省近畿地方整備局長 山田 邦博

福井県議会議長 仲倉 典克

来賓紹介・祝電披露・座長推挙

治水事業の概要説明

国土交通省水管理・

国土保全局河川計画課長 塚原 浩一

国土交通省近畿地方整備局河川部長 黒川 純一良

市町村長からの意見発表

福井県若狭町長 森下 裕

奈良県野迫川村長 角谷 喜一郎

兵庫県香美町長 浜上 勇人

京都府南丹市長 佐々木 稔納

大会決議

福井県越前市長 奈良 俊幸

次回開催県挨拶

和歌山県県土整備部河川・

下水道局河川課副課長 岡田 圭二

第 1 部 基調講演



京都大学
 防災研究所
 副所長
 中北 英一

「気候変動における影響評価と適応について」
 ご講演いただきました。

特別講演



豊岡市長
 中貝 宗治

豊岡市はどのようにして台風災害とたたかったのか」
 についてご講演いただきました。

第 2 部 治水大会

■ 主催者挨拶



福井県知事
西川 一誠

本日は、「近畿地方治水大会」に近畿各地よりご多用の中をこうして大勢の皆様方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

また、国会議員の先生方、議会議員の先生方、そして、国交省からは、山田近畿整備局長さん、塚原河川計画課長さんをはじめ皆様ご出席でございます。多数のご来賓の皆様ならびに関係者の皆様のご臨席を賜り、わが福井県で治水大会が開催でき、大変うれしく存じるところでございます。今日は、主催者のお一人であります、陣内会長さんもお出ましいただいております。感謝申し上げます。

さて、近年、気候変動により全国各地で、激甚化あるいは局地化する豪雨により被害が多く発生しております。今年の秋には、関東・東北豪雨により鬼怒川等、河川の堤防が破堤、決壊し、広範囲な被害が発生しております。

言うまでもなく、治水事業は住民の生活の安全・安心を守る最も根幹的な事業であります。暮らしや地域経済に長期にわたって効果をもたらす事業かと思えます。しかし、現在、国・地方を問わず、財政環境は非常に厳しく、ハード面の整備が思うように進まない状況もまたあるわけでありです。

このため、これからは堤防等のハード面の整備を着実に進めることにより災害に対し一定の安全度を確保するとともに、それを上回る災害に対しては減災を意識したソフト対策を重ね合わせて、都市計画等とも関係付けながら、人命の損失や社会インフラの機能麻痺を防ぐことが重要であります。

福井県では、平成16年の福井豪雨、平成25年の嶺南地方の豪雨により大きな被害を受けており、河川改修やダム等の整備等積極的に、今取り組んでいます。ダム事業では、現在、工事が進んでおります、国直轄事業の足羽川ダム事業、補助事業ダムの河内川ダム、吉野瀬川ダムの早期完成を今進めております。

一方、河川は地域住民の生活に深く係わります。

魅力ある川づくりを目指し、イベントの開催などによる利活用を進めております。足羽川では、江戸時代に利用されていた、繰舟というお舟の渡しを再現し、川に親しむ親水事業も進めております。

皆様方には、ぜひ本日の大会をきっかけに、今後、治水事業の推進に向け新たな決意を共々抱きながら、治水事業の一層の推進に努めていただくとともに、近畿地方、これは最も日本で昔から、神代の昔から、治水事業が初めて始まった地域が近畿地方だと思えます。福井県も継体天皇の時代から、治水事業を進めている訳であります。近畿の総意を結集し、国に対し一丸となって治水事業の着実な推進を働きかけ、大きな成果を出していただくことを期待しております。

なお、昨年、舞鶴若狭自動車道が全線開通し、近畿各府県から車でアクセスが非常に便利になりました。本県での自然豊かな海や山、美味しい食べ物、カニも解禁されております。いろいろ楽しんでいただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様方の、今後、ますますのご健勝、ご活躍、幸せを心からご祈念申し上げます。ごあいさつといたします。ありがとうございます。



全国治水期成同盟会
連合会長
陣内 孝雄

あいさつは省略させていただきます。



福井県治水海岸協会
副会長
鯖江市長 牧野 百男

ただいまご紹介いただきました、福井県治水海岸協会副会長を務めます、鯖江市長の牧野でございます。

本来ですと本協会長であります東村福井市長がご挨拶申し上げるべきところですが、公務により出席することが叶いませんので、私が本協会を代

表いたしまして、大会の開催に当たり一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、大変ご多忙のところ、滝波国会議員、山田近畿地方整備局長、仲倉福井県議会議長をはじめ国土交通省の皆様、陣内全国治水期成同盟会連合会長、ならびに県内外の治水関係機関の方々など、多くの皆様にお集まりいただき厚くお礼申し上げます。

また、近畿2府6県の治水関係の皆様には、日頃から住民生活を守るための治水事業に多大なご尽力をされておられますことに対し、心から感謝と敬意を申し上げたいと思います。

さて、昨今の局地的豪雨や台風により、全国各地で水害が相次いでいるわけであり、多くの尊い生命や貴重な財産が失われております。ここ福井県におきましても、平成16年7月の福井豪雨において、足羽川の堤防が決壊し、福井市街地が浸水いたしました。

治水事業は、このような水害に対応し住民生活を守る上で最も重要なものであり、河川改修やダム整備等ハード面の整備を着実に進めていくことが極めて重要であります。また、あわせて洪水ハザードマップの配布や自主防災組織の充実等、ソフト面の施策により、氾濫しても被害を最小化する減災対策を効果的に進めていく必要があります。

水害から地域住民の生命・財産を守り、安全で快適な生活環境の確保を図るためには、これからも国、県、市町がそれぞれの役割を積極的に推進していかなければなりません。しかし、昨今の公共事業を取り巻く情勢は厳しくなる一方であります。市民が安全で安心して暮らせるためにも、本日もご列席の皆様方にはこれからもなお一層のご尽力賜りますようお願い申し上げます。

本日の治水大会が治水事業の発展のために意義あるものとなりますことを、心から祈念申し上げますとともに、ご参会の皆様方の今後のますますのご健勝とご活躍を期待申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

■ 来賓祝辞



参議院議員
滝波 宏文



国土交通省
近畿地方整備局長
山田 邦博

失礼します。ご紹介いただきました、福井県全県区参議院議員滝波宏文でございます。本日は、近畿地方治水大会がご当地福井におきまして、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げる所です。本当にありがとうございます。

さて、治水と申しますと、それこそ黄河文明、インダス文明に始まるように、まさに、そこを治めるために政治が必要になり、そこに文化が起こるというふうな意味で、政治、文化の要諦といったところがでございます。日本国内におきましても、治水能力が足りなかった時代には、奈良ですとか京都ですとか、盆地の方で生活領域があったところですが、平野部大阪の方に広がっていくような、そういう生活領域と直結するような非常に重要なものである、それが昔からの歴史であるわけでありまして。

昨今、コンクリートから人へというふうな形で、その重要性が今一つ認識されずにきたインフラ整備全体でありますけれども、治水においてもそういった話がありました。私としては、非常におかしいなと思っておりました。財政赤字の関係で無駄だと言われることが多かったわけですが、それは、実は重要なのは社会保障における受益と負担のバランスこれこそが鍵であって、決して公共事業の方が、財政赤字の大きな要因だったのでは無いんだと今になって分かっているわけでありまして。

3.11の東日本大震災もありまして、また、自公政権が政権に戻って、今、安倍政権としてしっかりと必要な公共投資をちゃんとやっていくんだというふうに舵を切ってございますけれども、先程来、お話がありますように、治水事業予算こちらの方も、いよいよ、この11月、年末の時期でありますので、しっかりとサポートしていきたいと思っております。その旨、皆さんの前にお誓い申し上げまして、近畿地整はじめ国交省関係者の皆さんにより一層がんばってもらえるように全力でサポートすることを誓い申し上げまして、私、滝波宏文からのご挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうでございます。

みなさんこんにちは。ただ今ご紹介いただきました、国土交通省近畿地方整備局長山田でございます。

皆様方には日頃から、国土交通行政、とりわけ治水事業に関しまして、ご尽力、ご協力賜りまして厚くお礼申し上げたいと思います。

先程からお話がございますが、今年9月に台風18号で、東北、関東で激しい水害となっております。ここで、住民の方々の避難の遅れですとか、長時間広範囲にわたって浸水いたしました。多数の救出者が発生するという、課題が浮き彫りになったわけがございます。ここで、国土交通省におきましては、避難を促す緊急行動ということで、洪水時の河川管理者から情報と避難勧告あるいは指示のタイミング、こういったものの確認を、それぞれ首長の方々と不安等に答えるために目線を合わせていこうという、取組をしているところでございます。是非、ご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

一方公共事業の予算につきましては、来年も引き続き厳しい状況が続いていくと思ひます。このため、事業の選択と集中といったことが、益々重要視されていくと思ひますし、予算編成にあたりまして、ストック効果が最大限発揮される、そのような事業を重点化していくといった取組が求められていくと思ひます。本日、ご出席いただいております、皆様方におかれまして、この点を十分にご理解いただきまして、それぞれの地域で、ストック効果の積極的な発信といったものをしていただくことが全体の治水予算の確保に繋がっていくと思ひているところでございます。

今後も、皆様方のご支援とかご理解を賜りながら、しっかりと治水事業を進めていくつもりでございますので、よろしくご指導の程お願ひしたいと思ひます。本日は、本当におめでとうございました。



福井県議会議長
仲倉 典克

ただ今、ご紹介をいただきました、福井県議会議長の仲倉典克でございます。

今日は、地元の福井県から先輩の議員、そしてまた、同僚の議員沢山お見えでございますけれども、ご指名でございますので、私から一言ご挨拶申し上げたい

と思ひます。

本日、ここに近畿地方治水大会が、この福井市におきまして、近畿府県各地から沢山の皆様方に、ご参加いただく中で盛大に大会が開催されますこと、お祝ひ申し上げますと同時に歓迎を申し上げたいと思ひております。

人類の歴史は、川の氾濫によって悩まされ、そしてまた、川の恵みによって生かされてきた、その繰り返しでなかったかと思ひております。その繰り返しの中で、我々の地域コミュニティというものが創られて、そしてまた、我々の生活の基礎というものがそこで成り立っていった訳でございます。時代は変わっても同じなんだろうと思ひておきまして、やはり、これからはしっかりとこの川というものを整備して、そしてまた、川というものから恩恵を受ける、その中での事業というのは我々の生活にとっては、必要不可欠なのだろうと思ひております。

また、さらに言えば、川を整備するためには、山というものの管理というものも大切になっている訳でありまして、治水そして治山がしっかりとスクラムを組んで、我々の生活の環境というものをこれからもしっかりと守っていかねばならないと思ひております。

今ほど、近畿局長からも、話ございましたけれども、財政的に非常に厳しい時代を向かえておきますが、こういった我々の生活に係わる大事な事業でありますから、財政当局に十分にご理解いただく中で国家政策の重要課題と位置付けながら、この事業の推進に我々もしっかりと取り組んでまいりたいと思ひております。

どうか、それぞれの皆様方の更なるお力添え賜りまして、そしてまた、この近畿地方の治水事業がさらに進みますことを併せてお祈り申し上げまして、一言ではありますけれども、お祝ひとそして歓迎の言葉に代えさせていただきます。本日は、誠にめでたうございます。

■ 治水事業の概要説明



国土交通省
水管理・国土保全局
河川計画課長
塚原 浩一

ご説明内容は省略させていただきます。



国土交通省
近畿地方整備局
河川部長
黒川 純一良

ご説明内容は省略させていただきます。



兵庫県香美町長
浜上 勇人

■ 市町村長からの意見発表



若狭町長
森下 裕

平成 25 年 9 月の豪雨による、野木川堤防の決壊や被害状況、および、その時の町長としての災害対応と治水対策について発表いただきました。さらに、3 市町村長から、治水対策の重要性についての発表をいただきました。



京都府南丹市長
佐々木 稔納

■ 大会決議



福井県越前市長
奈良 俊幸

大会決議文は省略させていただきます。



奈良県野迫川村長
角谷 喜一郎

■ 次回開催県挨拶



和歌山県県土整備部
河川・下水道局
河川課
副課長 岡田 圭二

次回開催県の和歌山県から、ご挨拶いただきました。